この調査は、今日、家庭用殺虫剤の有効成分として主要な役割を果たしている、ピレスロイドの優れた殺虫能力の実用価値をより正確に評価するために、現状を把握して問題の発生を未然に防ぐことを目的に、今回は、蚊を対象に実施した。

実験は、現地で蚊の幼虫を探集して、LC-50値を調査した。また、再検討を要するレベルのものを研究室で飼育し、その成虫の感受性を調べた。

この調査は、1994〜1997年の3年間で、全国7地区、10県、12地点で実施した。調査結果は、各民間産業における感受性のレベルにあたり、その違いが見られ、抵抗性のレベルに達するものはないかった。

関東地区のアカイエカは、ピナミンフォルモに対するLD-50値が0.01μg、LC-50値は0.043であった。日本全国で、一部低感受性のものが見られ、全般的に問題になる所はなかった。

各種衛生害虫、蚊やブユをいぶしたり防ぐための「防蚊火や防蚊帳」など伝統的な防蚊具の紹介に続いて、ハエ類の防除具を報告する。

ハエは古来から嫌われており、すでに高松塚古墳の壁画に蚊払具がみられる。古来をはじめ、近年にいたるまでの主要な防蚊具を図示する。

ハエ防除のため「防ぐ、忌避させる、打つ、誘引する、捕獲する」などあらゆる器具が開発された。その中に、わが国で開発された「ハイトリック」のような優れたゼンマイ仕掛けの捕蚊器もある。また研究用の「ハエ格子」などの捕蚊器にも工夫がみられる。一方、ハエと伝染病媒介の関連では、明治30年ごろからハエ駆除の注意喚起を促す通達などがある（例示：福島県告示第4号）。

治療法に乏しい時代、地方の農山村もまた徹底した文書が配布されている。